

アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取市立気高中学校

実施期日：平成28年8月5日（金）
実施場所：気高中学校 会議室
アドバイザー：名城大学 曾山 和彦教授
研修テーマ：自ら考え、豊かに表現する生徒の育成
講義及び演習：「UDの視点を取り入れた授業の実践」

○講義及び演習のまとめ

1 今、気になる子どもたち

LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障がいのある子どもたちが小・中学校の通常学級には6.5%在籍する。(2012年、文部科学省)

◎自閉症スペクトラム障害（ASD）への支援のワザ

- ☆ 視覚情報の活用 ←フォトグラフィックメモリー
- ☆ 一度にひとつ（一指示一動作） ←短期記憶の弱さ
- ☆ 予定の伝達 ←見通しの持ちにくさ
- ☆ 肯定的表現「～しない、～するな」ではなく「～しよう」 ←禁止、注意が苦手
- ☆ （その子の）文化に寄り添う ←感覚の過敏性、字義性（言葉のまま受け取る）

◎自閉症スペクトラムの生徒は“ガラスのハート”の持ち主！

2 ユニバーサル授業を行うために

（ユニバーサル：普遍的な、全体の ユニバーサルデザイン：万人向けの設計）

ユニバーサルな教育・授業とは、

- ・発達障害のある子も周囲の子も共に学ぶことができるように工夫された教育・授業。
- ・個への支援が全体の支援につながる教育・授業。

～自尊感情とソーシャルスキルは人とのかかわりの中でしか育たない～

教室でできる特別支援教育 「王道」3Step

- Step1 気になる子の理解
- Step2 学級集団の理解
- Step3 全ての子の自尊感情とソーシャルスキルの育成

◎アイメッセージが有効

- 行動 … 相手の行動について伝える
- 影響 … どんな影響を受けているか伝える
- 感情 … Un-Happy な気持ちを伝える
- 私（指導者）が困っている、嫌だと感じていることを伝える

授業中の私語などに対して注意を促すときに

生徒に掛けたい言葉
「ありがとう」
「うれしい」
「助かった」

〈2本のアンテナでルールづくり〉 → ルール違反を見逃さないアンテナ
ルールの遵守を見逃さないアンテナ

〈縦の糸と横の糸を織るように…〉

〈縦の糸〉 教師と生徒のふれあいづくり（自尊感情へのアプローチ）

→ 「〇〇さん」「〇〇君」と呼ぶ。たくさん名前を呼ぶ。

生徒の「長所」や「好き・得意なこと」等を使い、褒める・勇気づける・認める。

〈横の糸〉 生徒同士のふれあいづくり（ソーシャルスキルへのアプローチ）

→ 短時間&ゲーム感覚で楽しめるグループアプローチを活用する。

ふれあいづくりに向けた「打ち上げ花火」。ただし、週1回でも続けて火を消さないこと。

3 気高中学校「貝がらタイム」の実践に向けた「アドジャン」の演習

「アドジャン」「〇〇ビンゴ」

SST的なねらい：話のし方・聞き方
（うなずき、視線、表情など）

SGE的なねらい：自他理解

自尊感情とソーシャルスキルを人との関わりの中で育てる必要がある→学校の役割

- ・自分を大切にできなければ、他者も大切にできない
- ・他者と関わる技術・コツがなければ、他者を大切にできない

○振り返り

曾山先生には、生徒の心に寄り添いつつ、教師として思春期の生徒たちとどのように関わっていくべきかを具体的な体験を基にしてお話していただいた。そして、なぜ今ユニバーサルな視点が必要なのか、また、ユニバーサルデザインの視点にたった教育活動がもたらす効果などを理解することができた。

今や特別支援の知識を持っていることは教師としての前提であり、その上で生徒との信頼関係の築き方や支援の方法を身につけておく必要がある。また、生徒同士の人間関係づくりも、私たち教員がさまざまな場面で仕組んでいかなければならない。

本校では、今年度から月に一度15分間の“貝がらタイム”を導入しようと考えている。今回曾山先生からその活動の意義を直接お聞きし、職員の意識もさらに高まった。今後は“貝がらタイム”を定着させるために、実施時間の設定や活動テーマ（アドジャンの内容など）の選定の仕方などを組織的に考えていきたい。また、教科担任や学級担任として、授業のUD化を図るための具体的な手法やアイデア等を学び、積極的に取り入れていきたい。